

「ひとり旅のつくり方講座（海外編）」

～自分だけのひとり旅をプロデュースしませんか～

報告書

日時：2004年4月24日（土）～4月25日（日）

場所：横浜市こども自然公園青少年野外活動センター

主催：自分と出会う旅工房

目次

1 . 開催趣旨	2
(1) 講座の開催目的	2
(2) 講座の目指すもの (目標)	2
(3) 講座の概要	2
2 . 実施内容	5
(1) 1 日目 (24 日)	5
(2) 2 日目 (25 日)	11
3 . 参加者アンケート	15
4 . おわりに	17

1. 開催趣旨

(1) 講座の開催目的

- 1)ひとり旅をしようとする人が、講座での参加者同士やゲスト・主催者の交流や中身の濃いワークショップでの体験を通して、自分流の旅をプロデュースする能力を身につけること。
- 2)全国各地の旅人のネットワークを作ること。

(2) 講座の目指すもの(目標)

1)基礎的なひとり旅の能力を身につけること

具体的には、知識、能力、意欲を持たせることを目指す。

- ・ 知識 旅やひとり旅に関する基本的知識
- ・ 能力 ひとり旅での課題を解決するための技能(グループワークでのコミュニケーション能力、課題解決能力、プレゼン能力)
- ・ 意欲 旅に対する積極的な意欲、積極的にひとり旅を計画する意欲

2)各自の旅のテーマを発見し、計画・行動のための課題を明確化し、ひとり旅の計画を作成すること

- ・ 1日目は、旅のスタイル別でグループをつくり、旅をする上での課題を出すことを目指す。
- ・ 2日目は、グループで出された課題やアイデアを元に、各自のひとり旅の計画を作り上げることを目指す。

3)講座修了後のネットワークの基盤を作ること

- ・ 参加者同士およびゲストと知り合い、交流できる場を設ける。
- ・ その他の情報交換、連携のしかたを身につける。

(3) 講座の概要

1)日時

2004年4月24日(土)13:00~4月25日(日)15:00

2)会場

横浜市こども自然公園青少年野外活動センター(横浜市旭区大池町65-1)

3)対象

海外へひとり旅をしたい(した・興味があるも可)16歳以上の10代、20代(30代以降も可)

*参加者属性

- ・参加者数4名(女性3名、男性1名/20代1名、30代3名)

4)参加費

15,000円【一般】/8,000円【学生】(1泊3食、保険料込み)

5)ゲスト(敬称略)

*西村 仁志(にしむら ひとし)

(環境共育事務所カラーズ 代表、「ヨセミテ国立公園大好き!」主宰)

1963年京都市生まれ。20代から環境教育や自然体験に興味をもち、何かしたい思いがふつふつと湧いて、周囲の心配をよそに1993年、京都YMCAの職員をやめる。アメリカへのひとり旅の後、無職で家族とたのしく暮らしていたら「環境共育」と「Colors of Nature」のキーワードに出会い、同年個人事務所「環境共育事務所カラーズ」を開業。環境共育と市民参加のコーディネーターがお仕

事。1995 年からヨセミテに通いはじめて、その奥深さと楽しさにすっかりハマってしまっている。
妻と1女1男あり。メールマガジン"Colors of Nature"発行人。

・ Colors of Nature / 環境共育事務所カラーズ <http://colorsjapan.com/>

・ ヨセミテ国立公園大好き！ <http://www.colorsjapan.com/yosemite/>

* 林 和代 (はやし かずよ)

(ひとり旅活性化委員会 / フリーライター)

1963 年生まれ。島で素潜りを始めて早 18 年。22 歳で島と素潜りを覚え、25 歳で貧乏旅を知り、27 歳で素潜り漁を初体験。以来すべてがとまらなくなった。水中生物への愛は膨らむ一方で、今はオウムガイと小エビに夢中。『1 日 1000 円で遊べる南の島』(双葉社)著。共著に『好きになっちゃったアジアの離島』、『好きになっちゃったミクロネシア』、『東京女ひとり暮らし』(双葉社)などがある。掲示板「みんなで作ろう南の島完全ガイド」管理人。

・「ひとり旅活性化委員会」掲示板 http://www.go-kakuyasu.jp/bbs/fr_hitoritabi.html

・「みんなで作ろう南の島完全ガイド」掲示板 http://www.go-kakuyasu.jp/bbs/fr_minami.html

* 中村 岳彦 (なかむら たけひこ)【当日欠席】

(都市銀行員、自転車の旅人)

1976 年相模原市生まれ。小学生時代から地元のボーイスカウトに入り、大学時代はサイクリング部に所属。大学時代、自転車での単独日本一周にはじまり、北欧、エジプト、中国、シルクロードなど海外を自転車で疾走。都市銀行の営業マンになった現在でも、休みを活かし海外に自転車旅行に出かける。

・ 大学時代の大学広報誌より紀行文「北欧、エジプト自転車の旅」

http://www.chuo-u.ac.jp/chuo-u/pdf/hkc_99n3/99n3_02.pdf

6) コーディネーター

* 秋山 友志 (あきやま ともゆき)

(自分と出会う旅工房 代表 / かながわ環境教育研究会)

1978 年横浜市生まれ。学生時代に自転車での旅(日本一周、アメリカ西部の国立公園巡り)をして、自分を成長させるひとり旅のすばらしさを味わう。現在、NPO 職員として勤務する一方、個人事務所「自分と出会う旅工房」を 2004 年 1 月より開業している。

・「自分と出会う旅工房」ウェブサイト <http://www.j-tabikobo.com/>

・ 個人ウェブサイト「Blowin' In The Wind」 <http://www.j-tabikobo.com/tomoyuki/>

7) 主催

自分と出会う旅工房

8) スケジュール案

* 1 日目 (24 日)

12:30 受付開始【受付場所：雨天集会場】

13:00 開会、オリエンテーション【雨天集会場】

13:45 自己紹介、アイスブレイキング【雨天集会場】

15:00 ゲストトーク「ゲストのひとり旅体験談とコツを聴く」【雨天集会場】

16:45 ワークショップ 1「グループワーク～自分の旅への思いをシェアして棚卸しする」

【雨天集会場】

18:00 チェックイン【宿泊棟】、夕食(カレー、サラダ、デザート)、入浴【管理棟】

- 19:45 ワークショップ2「グループワーク～旅をする上での課題を解決する」【雨天集会場】
- 20:30 意見交換会、交流会【食堂 or 雨天集会場】
- 22:00 就寝【宿泊棟】、スタッフミーティング【宿泊棟 or 食堂】

*2日目(25日)

- 6:30 起床
- 7:00 オプションプログラム「テーマ別のアクティビティ・レクチャーを選択」【公園内】
- 7:45 朝食(野外炊事、カートンドッグ、スープ)【野外炊事場】、清掃、チェックアウト
- 9:00 講義1「旅の準備と旅の企画書の書き方」【雨天集会場】
- 10:00 個人作業1「自分のひとり旅のイメージを固める」【雨天集会場】
- 11:00 ワークショップ3「グループワーク～旅の準備と旅のあと」【雨天集会場】
- 12:00 昼食(野外炊事、手打ちうどん、パンケーキ、焼き芋、デザート)【野外炊事場】
- 13:00 個人作業2「発表の準備とまとめ」【雨天集会場】
- 13:45 発表会「自分だけのひとり旅の計画を発表しよう!」【雨天集会場】
- 14:45 ふりかえり、まとめ【雨天集会場】
- 15:00 閉会
- 16:00～オプション企画「参加者・ゲスト・スタッフ有志による番外懇親会」

2. 実施内容

(1) 1日目(24日)

13:15 開会、オリエンテーション【雨天集会場】

* 主催者あいさつ

- ・ ゲスト参加の予定であった中村岳彦氏が、体調不良のため参加できず。
- ・ 参加者が少なめですが、その分、参加者同士やゲストと交流する機会が増え、中身の濃い講座になります。講座をみんなで楽しくしましょう！
- ・ 「大切にしてほしいこと」「楽しみましょう！」「ネットワークにしましょう！」「みんなの自主性がキーです」「自分の面白い旅の計画をつくりましょう！」

* 施設職員より

シーツの掛け方と布団のたたみ方、生活の案内を分かりやすく説明いただきました。

13:45 自己紹介、アイスブレイキング【雨天集会場】

スタッフのシゲさんのリードで、すっかりみんな緊張もほぐれました。

* 「私は 派！あなたは 派？」

- ・ 「普段腕を組んだ時、左右の腕はどうなっている？」「今度は左右の腕を入れ替えるとうろかな？」「両手の指を組んでみるとどっちの手の親指が上？」「朝食に何を飲む？」などの質問に対して自分が当てはまるグループを見つける。

* 他己紹介

- ・ 二人ペアになり互いに自分のことと人に教えられることを伝え、みんなに相手の紹介をします。

* ネームトス

- ・ ボールなどを順番に投げ、投げる時に渡す相手の名前を呼ぶ。これでみんなの名前を覚えます。

* 棒タッチ

- ・ 誰かの名前を呼び、呼ばれたら次の人の名前を呼ぶ。次の人の名前を呼ぶ前に、輪の中心にいる鬼に棒でタッチされたら、今度は自分が鬼に……。これで、みんなの名前を完璧に覚えました。

* みんなで息を合わせて・・・

- ・ みんなで手をつなぎ輪になり思いっきり力をいれ引っ張りあう。引っ張り合いながら、息を合わせて一緒に座り、そして再び立つ。みんなで息を合わせないと倒れてしまいます。

15:00 ゲストトーク「ゲストのひとり旅体験談とコツを聴く」【雨天集会場】

1) 西村さんより

* 要旨

- ・ 大学生の頃、YMCA でボランティア活動をしていて、初海外旅行は大学の3回生の時。YMCA のスタディツアーでタイ、ビルマ、バングラディッシュに行った。その旅では、日本とは違う文化・違う時間の流れを始めて体験した。初の海外旅行がこの旅だったので、とても恵まれていた。
- ・ 大学を卒業してからは、YMCA に就職し、就職後3年経って結婚した。新婚旅行の時、やっと海外(イタリア)へ旅行ができた。忙しい職場だったので、こういう機会でないとい長い旅行はできなかった。ツアーやパッケージではなく、その頃(1989年)は、まだ少数派であった自分たちで計画をする旅だった。鉄道やバスの切符やホテルの予約をするなど、旅の面白さを知った。

- ・ その後、91年に子どもができてからは、その子連れパッケージツアーで1週間ハワイに旅行をした。ハワイの良さに触れた。
- ・ 93年の3月末にYMCAを退職し、翌4月1日に個人事務所を始めた。事業計画はなく、環境教育の現場を見ようとアメリカへ1人旅をした。4月上旬には、ニューヨーク州のYMCAフロストバレーのワークショップに参加し、マンハッタンやオハイオ州コロンバス、ロサンジェルス、サンフランシスコへ。サンフランシスコでは、1人でアメリカに移住した従兄弟に15年ぶりに会った。そこで、組織に入らず仕事をする従兄弟の働き方(SOHO)を知った。
- ・ 95年にいろいろ海外へ行った。前年に金銭的に余裕ができたこともあり友人を訪ねるためドイツへ2週間家族旅行をした。ドイツ南部のウルムから、アウトバーン(高速道路)などを使いレンタカーで、オーストリア・リヒテンシュタイン・スイス、フランス、ドイツ国内の小旅行をした。このとき、初めて海外での車の運転を経験した。
- ・ 同年、ヨセミテへ初めて行った。前年ヨセミテのパークレンジャーのインターンとして活躍していた河合さんと知り合った。前後して、JTB京都支店からエコツアーのコーディネートを請けた。それで、河合さんと組み、ヨセミテツアーを企画した。97年まで、3回このヨセミテツアーのコーディネートをした。98年からは、一般募集をしない形でカラズが主催で主に6月、8月と今まで13回のヨセミテツアーを行なっている。
- ・ 同年95年、トヨタ財団の助成で「歴史都市におけるエコツアー」の研究のため、イギリスにも行った。ウェールズのCAT(The Centre for Alternative Technology:地球環境と調和した生活を提唱するテーマパーク)やヨークのまちでの市民によるガイドを見学した。
- ・ ハワイへは、何度か出かけていたが、昨年始めてツアーを組んで行った。ハワイでの宿は、「マナゴホテル」で、日系の方が経営をしていて、先代のおじいちゃんは日本が話せる。1泊50ドル程度。「マナゴホテル」へは、車でのアクセスが主なので、ハワイを訪れる多くの日本人は、ツアーやバスで移動する人が多く、良い所を見過ごしている。アメリカでは、自分で車を運転し移動できるという良さがある。
- ・ 下の子(小学6年生の男の子)の友達の家族が、父親の仕事の関係でアメリカ・ボストンに引っ越した。息子は個人のホームページを作り、チャットコーナーで国は離れているが今でも友達同士会話をしている。この夏、ヨセミテツアーに息子連れ、このボストンの家族に息子を2週間あずけたい。今は、国境を感じず、会いたい風景、会いたい人に会える時代になった。



* 質疑応答

Q. ヨセミテ国立公園はどういう所？

A. 広さは東京都の約 1.5 倍、標高は 1,000m~4,000m。氷河が削り取った大渓谷やジャイアントセコイアの森もある。2,000m の高原地帯のキャンプ場から、軽装で 3,000m ぐらゐまでハイクができる。

Q. ヨセミテ国立公園のベストシーズンは？

A. 渓谷の滝（ヨセミテ滝）は、水量が増える 5 月上旬~6 月がベスト。標高が高いところでは、涼しい 8 月上旬がお勧め。詳しくは、「ヨセミテ国立公園大好き！」のホームページでも載せている。

Q. 現地ツアーのノウハウはどうやって習得したのか？

A. 95 年から 3 年間 JTB のツアーをコーディネートしてきたが、食事や宿、バスの動かし方など融通がきかず窮屈だった。カラーズ主催のヨセミテツアーからは、情報収集しやすくなった。1 回目ツアーで出会った日系人の方にも協力をいただいている。回数を重ねるとトイレの位置までもだんだんわかってきた。

Q. ヨセミテでは、ひとりでキャンプはできるのか？

A. ひとりでも出来ます。しかし、キャンプ場の人気が高いので、取れなかったときを考えると、代案の宿を探すことも必要。

Q. どうしてヨセミテのツアーに絞っているの？

A. 他の場所に行く時間がないから。もし、最初に他の場所に行っていたら、その場所にはまっていたかもしれない。でも、自分がヨセミテに行きたいからツアーを組む。

Q. 大手旅行業者のツアーとの違いは？

A. お客にとって、旅行ツアーは商品を買う感覚に近い。違いを具体的に言うと、泊まる場所（ホテルかキャンプ場か）と体験内容の違いがある。どのツアー（商品）を買うかは、お客さんの好み。

Q. どうやってヨセミテツアーのモチベーションを保っているのか？

A. 毎年行っているヨセミテでも、「自分が出会っていないヨセミテ」が、まだたくさんある。ヨセミテには一生分の楽しみがある。まだ行っていないハイクトレイルがある。毎回ツアーの中で、自分が行ったことがないところに必ず 1 日は行くようにしている。

2) 林さんより

* 要旨

- ・ 「女ひとり旅読本」を出す時、本を書いたメンバーが中心になり、「ひとり旅活性化委員会」を作った。委員会の会員を本の中で募集したところ、応募がたくさんあった。委員会では、会員用の掲示板があり、旅の情報交換が活発にされている。年 3 回程度、オフ会も行なわれている。
- ・ はじめに出した「女ひとり旅読本」が評判だったので、その後シリーズ化して、恋愛編、危険編、海外旅行マニュアル編（ビギナー向け）と委員会で作本を出した。最新は、「続・女ひとり旅読本」。
- ・ 南の島の海は、入って見ないとアタリかハズレか分からない。珊瑚や海がハズレでも、島（の人）がアタリの時がある。島の人の家に泊めてもらうこともある。島の家に泊まると、民家の造りや、島の知恵（庭の小さな椰子の木、ドラム缶の水浴び場、雨水タンクなど）、料理（地面に穴を開け熱した石を穴に入れバナナの葉で蒸した料理）など島の人の暮らしが分かり、ほとんどタダで泊めてくれるのでお得。
- ・ 雑誌の取材で、ミクロネシアのコンペイ島にホームステイをした。泊めてくれた家は、マングロープの家で電気はないが、目の前に小川があり洗濯やお風呂もでき、山からの湧き水もあり、ゴ

- ージャスだった。家のまわりの森の木は、薬草のような木だらけ。島の固有種のマトーという木の皮のお茶（味は、シナモンに似ている）が大好きだった。ご主人は、「島の植物博士」であり、素潜り大会で優勝するような「ミクロネシアの漁師」でもあった。その後2回この家に行った。
- ・ 南の島をいろいろまわったので、昨年、体験談と情報をまとめた本『1日1000円で遊べる南の島』を出した。この本では、それまでに行ったところや新たに取材をしたインドネシア、タイ、マレーシア、ミクロネシアを中心に載せている。
 - ・ 現地の言葉は、現地の人と生活を共にしてカタコトだが覚えた。日本人は怖がるが、現地の人の家に行くと結構楽しい。
 - ・ タイのブーケットの漂海民（シーブプシーとも呼ばれ現地の人から差別を受けているインドネシア系の移民でマレー語を使う）は、愛想がないが親切でかっこいい。彼らのボートに乗せてもらうと絶対いけないような島にも行ける。
 - ・ ローカルで経済的にもあまり豊かでない国のほうが、発見が多く、生活にかかるお金も安く、危険が少ない。南の島に限らず、田舎は安全。南の島のような田舎に行くと、旅行者が珍しく、現地の人から監視されるため、逆に危険にさらされることが少ない。しかし、相手から寄って来るような人は危険。日本の女性は特に、お金を持っていておとなしくいう事を聞くというイメージをもたれているので、相手から寄って来る場合は、ほとんど何かの魂胆がある。南の島の漁師は、生き方が単純で裏がないので、ほとんど自分から声をかけてこない。
 - ・ 漁師好きで素潜りや珊瑚も好きだが、最近の悩みは、インドネシアなどの漁師の中に違法にダイナマイトで漁をして、珊瑚を壊していること。でも、一方で珊瑚再生の実験をしている。
 - ・ アジアの国々は、宗教違っても同じ米文化で、日本人には合う。



* 質疑応答

Q. 旅行ライターは、どういうライフスタイルか？

A. 昔からライターをやっていたが、旅行ライターになって貧乏になり、本を出した時、取材の経費が出ないため、さらに貧乏に。お金に執着はないが、時間はある。基本的に、雑誌や本の編集社からの取材依頼があって、旅に行く。

Q. 南の島での取材はどういうものか？

A. 島では1,2週間滞在して、そこでの生活を記事にしたりする。英会話教室の「NOVA」が以前出して

いた旅行雑誌にも記事を出していた。

Q. 取材ではなく、プライベートの旅ではどんなふうに過したいか？

A. 取材の時はカメラが邪魔なので、プライベートの旅ならカメラを持って行かない。本当に何もしない。取材のネタを探していたとき思いつきで漁師のことを取材したが、プライベートではやりたいことをやってみたい。

Q. ホームステイの取材では？

A. 南の島の方は、大体写真に撮られることを快く受け入れてくれる。ただ、写真に撮られることを嫌うところもある。プライベート感覚で、取材をする。

Q. 取材の時、取材費は払うのか？

A. 明らかに生活に困っているお家には払う。しかし、状況によって違う。泊めてくれるお家との関係を考え、なるべく自分と相性のいいところにお邪魔する。

3) コーディネーター秋山より

* 要旨

- ・ 私と中村岳彦氏は、大学時代の友人。大学のクラスがいっしょで、チャリ（自転車）仲間です。彼がこの場にいないのは残念。
- ・ 大学1年の時、サイクリング部であった中村氏は、自転車で日本一周の旅をした。翌年の大学2年の時には海外へ出て、北欧へ。その後、エジプトや中国、シルクロードに自転車で旅をしている。私も彼の影響を受け、大学2年生の夏休みに自転車で日本一周の決意をした。
- ・ 私の旅との出会いは、中学生時代、学校の友人と自転車で江ノ島や泊りがけで伊豆などに行ったこと。高校生になっても、中学生時代の友達と自転車で千葉に行った。高校2年生の時、ひとりで、飛騨高山へ21日間の旅をする。飛騨高山への旅で、公園や河原で野宿し、ひとり旅の面白さに味を占めた。
- ・ 大学3年の夏休みには、アメリカ国立公園巡りの旅をした。シアトルから入り、国立公園（グレーシャー、イエローストーン、グランドティトン、グランドキャニオン）で、約1ヶ月間（各国立公園で1週間）キャンプをした。
- ・ アメリカの道路は駄々広く、風景が変わらず単調であった。その上、乾燥した気候で脱水症状の一手手前までいき、辛かった。
- ・ イエローストーンなどの国立公園のキャンプ場では、日本人が少なく、10ドル前後の料金なので、キャンプはお勧め。
- ・ アメリカの道路地図を日本で手に入れるのは大変だったが、現地では州ごとの地図が手に入りやすい。

* 質疑応答

Q. アメリカでの旅で、自転車は日本から持っていったのか？

A. 自転車は持っていかず、シアトルのREI（アウトドアの大型店）で購入し、その自転車で旅をしていた。帰りには、自転車を持って帰るお金がなくなったが、なんとか自転車を日本に持って帰ってきた。

Q. アメリカでの旅は、学生のいつの頃の旅？

A. 夏休み前の試験が終わってすぐ出発し、休みが終わる直前に帰ってきた。飛行代は、ハイシーズンなので高く、現地での生活費（15万円）と同じくらい。

Q. 今後の予定は（旅ではなく個人事務所での）？

A. いまのところ、次の講座の予定はたっていないが、教育的な視点で旅をとらえていきたい。

Q. アメリカの旅の日程は、だいたい日本で決めたのか？

A. はじめはアメリカ縦断の予定だったが、走ってみてあまりにも広く、グレーシャー国立公園では、公園のすばらしさに、1泊や2泊で公園を後にしてはもったいないと思い、各国立公園で1週間キャンプをした。キャンプ場は、車用のサイトとウォークイン（バイカー/ハイカー）のサイトがあり、ウォークインのサイトは比較的すいているので、すんなり泊まれた。

Q. アメリカの国立公園のキャンプ場には、シャワーはあるのか？

A. キャンプ場にもよるが、公衆シャワーが設置されているところもある。でも、乾燥していてほとんど汗をかかなかったので、シャワーを使わず、水浴びで済んだ。

18:00 チェックイン、夕食（カレー、サラダ、ヨーグルト）入浴【管理棟・宿泊棟】

夕食は、スタッフ シゲさんお手製のオクラ入りカレーとサラダ、ヨーグルト。オクラとカレーの意外な組み合わせ！？でも、本当においしく大評判でした。

20:00 意見交換会、交流会【雨天集会場】

ざっくばらんに、参加者・ゲスト・スタッフが旅について語り合いました。このとき、出ていた主な話題は、ノラさんの南米での生活や旅の体験談、南米の国々の人の暮らしと文化や地理・歴史、インドや中国などのアジアの旅、タヒチなどの南の島の旅など。やっぱり、旅の話は盛り上がります。

22:00 就寝、スタッフミーティング

スタッフが2日目の進行を打ち合わせていた頃、オプションでひとり、公園内を散策された方がいたそうです・・・。

(2) 2 日目 (25 日)

6:30 起床

7:00 オプションプログラム「西村さんと公園散策」【公園内】

朝、すっきり晴れた空の中、心地よいお散歩。野鳥の鳴き声もたくさん聞えました。

7:45 朝食 (カートンドッグ、スープ) 【野外炊事場】

ドッグパンに炒めたウインナー、刻んだキャベツ、とろけるチーズを挟み、アルミホイルに包み、牛乳パックに入れ、牛乳パックを火にかけ、牛乳パックが燃え尽きたら、パンが軽く焼けておいしくなります。

8:45 清掃・チェックアウト【管理棟・宿泊棟】

9:15 講義 1 「旅の準備と旅の企画書の書き方」【雨天集会場】

1) 林さんより

* 旅の危機管理について

- ・ 現地の治安をしっかりと調べることが重要。事前に、行き先の渡航情報を外務省の海外安全ホームページ (<http://www.pubanzen.mofa.go.jp/index.html>) で、チェックすること。でも、事件や事故は、いくら安全な国でも起こりうる。
- ・ 現地の治安は、特に、ガイドブックに載っていないことも調べておく必要がある。具体的には、その国の敵国、宗教、習慣など。例えば、イスラム教の国では、女性は服装に注意しなければならない。ノースリーブはもちろん、脚を出してもいけない。現地の村や家の習慣に合わせることも大切。習慣に合わない振る舞いをすると失礼になるが、逆に、ちゃんと習慣に合わせた振る舞いをすると現地の人ともすぐ仲良くなれる。
- ・ インターネットなども活用し、旅行前に納得行くまで、情報を得ると良い。また、海外のニュースをヘッドラインのように扱っているメールマガジンもあるので、活用してほしい。

* 質疑応答

Q . アジアの中で危険な国は ?

A . マレー半島のマレーシア東側。西側は、中国やインド系の雰囲気ではいいが、東側は、イスラム色がかなり強く、軍隊もある。ビーチで水着は厳禁。お酒も飲めない。インドネシアもイスラム教だが、マレーシアよりも緩い。タイも最近、危険なところは少なくなっている。

2) 西村さんより

* 旅のプランニングについて

- ・ 「ヨセミテ国立公園大好き！」のサイトを管理している関係で、ヨセミテの旅の相談を受けることが多い。しかし、例えば、「ヨセミテの見所はどこですか？」などという漠然とした質問は答えにくい。一般的なことは、サイトに載せている。その人のバックグラウンドや具体的な相談内容 (例えば、「 月 日、 ホテルの予約をとるにはどうするのか？」など) が、ある程度判ると相談に答えやすい。
- ・ 日本人は、欲張りでいろいろなところを見ようと短い期間に何でも詰め込み、目次を見るだけのような旅行になってしまいがち。その結果、1 箇所ほとんど滞在時間がなく、何のために旅行

をしたのか分からないことになる。1箇所に長い時間（1週間程度）滞在する旅のほうがいい。

- ・ ヨセミテなどのアメリカの国立公園では、旅行者はほとんど中産階級以上の白人であるため、治安が良いが、国立公園から離れ、サンフランシスコなどの大都市に出るときは、気を引き締めてとアドバイスしている。大都市では、国立公園と違い、いろいろな人種がいて、裏通りもかなり危険。裏通りに入った時、目つきが悪い人が多いことやゴミが多いなど雰囲気でも臭ぎわけ、入らないようにする。

* 参加者意見

- ・ 旅行会社などでは、どこに行きたいか言わないと進まないが、逆に、旅の目的や行く季節、日程などの条件から、合う国を決めてくれる、旅行会社があればいい。また、特徴を持った旅のコンサルタントがいれば、人が思いつかないところをアピールできるのでは。ニーズはあるので、起業もできる。

3) コーディネーター秋山より

* 旅の計画書の書き方について

旅の企画書の書き方と最後の発表の説明をさせていただきました。

10:15 個人作業1「自分のひとり旅のイメージを固める」【雨天集会場】

ここからは、個人作業でみなさんの旅の計画をまとめていただきました。途中、ペアーになり、お互いの計画を発表し合う相談タイムを設けました。

12:00 昼食（ナン、焼き芋、フルーツ）【野外炊事場】

昼食は、スタッフ（よし、しづかさん）お手製のナン（？）と焼き芋とフルーツ。昨日のカレーとサラダ、おにぎりもおいしくいただきました。



13:00 個人作業2「発表の準備とまとめ」【雨天集会場】

発表のための最後の仕上げをしていただきました。

13:45 発表会「自分だけのひとり旅の計画を発表しよう!」【雨天集会場】

1) みいしゃさん

- ・旅のタイトル:「自然とつながり、自分とつながる祈りのダンス」
- ・旅の時期と期間:今年の夏、2ヶ月間(7/7~9月中旬予定)
- ・行き先:主に、アメリカ・サウスダコタ(アメリカインディアンの居住地)、サンフランシスコ(ツアー参加)、ロサンゼルス、ニューオリンズ、メンフィス、ニューヨーク
- ・旅の内容:母なる大地、大いなる空の下、人々が祈り生きてきた踊りや音楽の原点を見る旅。わたしの人生でわたしの踊りを舞うために、魂で感じるなにかを、この旅でつかんでくる。古代からのネイティブな音楽や踊りから、最新の舞台芸術まであらゆる人種、ジャンル、表現の宝庫のニューヨークにも足を運びたい。

2) タカさん

- ・旅のタイトル:「人生折り返し地点、行ってない所に思い切って行ってみる旅」
- ・旅の時期と期間:今年の6月以降~来年3月予定
- ・行き先:ユーラシア大陸横断、アフリカ、南米一周
- ・旅の内容:人々の生活に触れ、現地のもを食べ、音楽を聴き、ビールを飲む。多くの価値観に触れ、理解し、その時自分がどう感じるかを試してみたい。

3) ノラさん

- ・旅のタイトル:「ホロホロ」(ハワイの言葉で「気の向くままに動く」という意味)
- ・旅の時期と期間:14日間予定
- ・行き先:ハワイのマウイ島
- ・旅の内容:人力(自転車・歩く・走る)で達成感を味わいたい。現地の人と話し、人を見たい。ハレアカラでは、トレッキングをして自転車下りツアーに参加したい。おいしいものを食べ、ビーチでキャンプをする。

4) アッコさん

- ・旅のタイトル:「アメリカの西部国立公園の巨木を巡る旅」
- ・旅の時期と期間:6月~8月(季節が良い時)、10日間予定
- ・行き先:主に、アメリカ・サンフランシスコ ミューアウッズ国立公園、ヨセミテ・ジャイアントセコイア、ホワイトマウンテン・ブリュッセルコーンパイン
- ・旅の内容:大きな木に触れてみたい。木に触れ、自然と宇宙に包まれたい。ホワイトマウンテンでは、樹齢7,200年のブリュッセルコーンパインを見る。ヨセミテへは、レンタカーを使い、モーターやキャンプ場に泊まる。



14:45 ふりかえり、まとめ【雨天集会場】

振り返りシートを元に、最後にみなさんから感想を述べていただきました。

* タカさん

- ・ 人に話してイメージが鮮明になった。人の旅のコーディネートをするなどの「場」をつくりたい。

* アッコさん

- ・ 昔はツアーの旅が多かったが、講座に参加して気軽に旅に行けるような気になった。前日、講座に参加しようか迷っていたが、参加してよかった。

* ノラさん

- ・ 旅への好奇心は持っていたが、忙しさでふたをしていた。これからは、ふたをしないで、行きたければ行く。普段は企画の主催者側が多いが、今回純粋に参加者として参加でき、みんなも刺激的で収穫があった。

* みいしゃさん

- ・ 今回遠方からの参加だったので、講座会場までの交通費を考えると決して安くはなかったけど、お金や時間の使い方は、その人の価値観であったり、人生そのものである気がして、「ひとり旅」を考えるにあたって、随分参考になった。また、この2日間の講座で、時間に縛られたくないマイペースな自分も分かった。

* 林さん

- ・ 偏った旅しか知らなかった。カートンドッグの作り方も学んだ。普段会えない方と楽しく過せた。

* 西村さん

- ・ 旅をテーマにした講座は初めてだったが、みんなの様子を見て、自分の旅の心がそそられた。これからは新しい場所や新しいテーマで旅をしたい。

15:00 閉会

野外活動センターの所長さんの「人生とは旅です」というご挨拶。まさにその通りです。

15:30～オプション企画「参加者・ゲスト・スタッフ有志による番外懇親会」【公園内】

公園内のバーベキュー広場で、お酒を交え、参加者とゲストのみなさんで盛り上がりました。旅の話から恋愛の話まで……。今度は、旅の報告会で集まりましょう！

3. 参加者アンケート

問1. セミナーの内容について

(1) 全体的な内容について満足できましたか？100点満点で何点だったかお書き下さい。また、なぜその点なのか理由もできればお書き下さい。

* 参加者平均 63.3点

- ・ 70点 カリキュラムをもう少し練る必要があると思います。
- ・ 60点 タイムスケジュールに少し無理があったかと思ひます。もう少し旅の味わいや「旅」という概念・イメージみたいなもの、自分と旅とを結びつけるワークが欲しかった。
- ・ 60点 内容的にあいまいな点がありもどかしさを感じた。ゲストからもっと吸い上げられる情報があったのでは。今回は、ゲスト・参加者に助けられた面もあると思う。どのようにコーディネートするかをもっと明確にすると良い。

(2) 全体的な進行について(6段階で、1:大変不満足~6:大変満足)

* 参加者平均 3.3

- ・ もう少し事前準備が必要ではないでしょうか？
- ・ 変更があるのは仕方ないことなので、もっといろいろなパターン、シュミレーションしてもいいかも。
- ・ 進行は主催者側がもう少し明確にしても良いと思う。参加者にあまり意見を聞きすぎてもどうかと思う。

(3) ゲストについて(6段階で、1:大変不満足~6:大変満足)

* 参加者平均 5.3

- ・ 良い出会いでした。
- ・ 林さん、素敵な女性です。ゲストが男性、女性と両方バランスがとれていてよかった。

(4) 会場施設について(6段階で、1:大変不満足~6:大変満足)

* 参加者平均 4.7

- ・ 素敵なフィールドです。せっかくなのでもっとフィールドを生かしたワークして欲しかった。

(5) 食事について(6段階で、1:大変不満足~6:大変満足)

* 参加者平均 5.0

- ・ スタッフの愛情こもった料理よかったです。

(6) 事務局(「自分と出会う旅工房」)の事前対応について(6段階で、1:大変不満足~6:大変満足)

* 参加者平均 5.3

- ・ 施設についての情報が少し不足していました。
- ・ かなり丁寧にされていたと思ひます。

(7) 参加費について

* ちょうど良い 66%

* やや高い 33%

- ・ 今回の内容ならこの値段でもよいが、もっとターゲット(年齢)を絞ってやった方がよいのでは。

(8) 開催日程について

* 1泊2日でよい 100%

問2 . 「自分と出会う旅工房」では、今後も「旅」に関するセミナーを開催予定ですが、どのようなセミナーなら、参加したいですか？（複数回答可。）

* テーマ別（例えば女性のひとり旅や長期の旅など）にもっとつっこんだ講座 66%

* ひとり旅の報告会や交流会（講座のフォローアップとして） 66%

- ・ それぞれに興味があるが、まず、主催者が「旅」を通してどのようなことを考えたいのか、何を伝えたいのかをもっと具体的に考えた方がよいと思う。

問3 . その他、ご感想・ご意見がありましたら、ご自由にお書き下さい。

- ・ 「ひとり旅」の範囲が広く、参加者の求めるものにも、バラツキがある。今後は、自然系、文化系遺産系とか、初心者編とか、上級者編とか、受講者をカテゴライズし、それに合った、ゲストや内容を設定しては。
- ・ 旅行会社ではないのだから、もっとねらいがはっきりしていたら良かったかな。企画としては、とっても面白いと思うので、もっと形になるといいですね。今後の展開を楽しみにしています。

4 . おわりに

私が学生の頃、海外（アメリカ西部の国立公園）へ初めて「ひとり旅」をした時、某「地球の」というガイドブックを手にしていました。この本を頼りにしながらスケジュールや準備をして、某旅行代理店「 .I. .」で飛行機のチケットを買い、あとは何とかなるという気持ちで、旅に出ました。実際、楽しい思い出と共に無事に帰ってこられたので何とかあったのですが、月日が経ち社会人になり、「そういえば、もっと事前にいろいろな(特にアメリカへひとり旅を経験した)人の話を聞いておけば、もう少し違う旅(少なくとももっと楽しい旅)ができたのではないか」と思うことが時々ありました。

私に限らず、「ひとり旅」をする人にとって、「ひとり旅」をする前に、多くの旅を経験した「旅のブログ」の話を聞き、「ひとり旅」の計画を立てる時に活かせる場があれば、結構面白いのではないかと。そんな思いで実施したのが、この「ひとり旅の作り方講座」なのです。しかし、このような講座は今までに見たことや聞いたことがなかったのですから、講座の実施は、まったくの手探り状態でした。

私は、人の短い人生の中で、「ひとり旅」というのは、特別なように感じています。学生の頃の「ひとり旅」を経験し、旅先での人の温かさと共に、「自分の成長」というものを実感していました。それは、誰にも頼らず直面する困難に対処しなければいけない場面が多くあり、それを何とか乗り切ったからだと思います。例えば、普段は家族や誰かが作ってくれた食事を、旅先では自分で作るという些細なことから、人によっては、生命の危機にさらされた危機一髪の場合で、あの判断を自分でしたから困難を乗り越え、いまを生きているというという「ひとり旅」もあるはずです。

でも、旅であろうがなかろうが、直面する困難の壁がどうであれ、自分で困難を乗り越えようと何かをすることは、自分の可能性を信じることに繋がると思います。「ひとり旅」でも自分を信じるのが大きな力になります。寂しくても、辛くても、自分の可能性を信じてした「ひとり旅」は、きっと他人に誇れる「宝物」になります。また、「ひとり旅」は、普段気づきにくい自分の性格や「本当の自分」に気づききっかけを与えてくれると思います。そう、「ひとり旅」には、多くの魅力が溢れています。

今回初めてこのような企画を実施するにあたって、私とほとんど初対面にも関わらず、参加いただいたみなさん（みいしゃさん、アッコさん、ノラさん、タカさん）。また、このような企画を実施するにあたって、1月の関西学院千刈キャンプでゲストの依頼をOKしていただき、困った時に相談に乗っていただいた西村さん。そして、急な依頼に対して、快く参加を承諾いただいた林さん。また、「ひとり旅活性化委員会」の山田さん。みなさんとの出会いを本当に感謝したいと思います。

そして、毎日忙しい中、本当に親身に企画を考えてくれた私の親友・中村岳彦。当日だけではなく事前にもスタッフとしてお手伝いいただいたシゲさん、よし、しづかさん。わがままを聞いていただいた野外活動センターの職員のみなさん。裏方でのみなさんの支え、本当に助かりました。

また、横浜 YMCA のみなさん、タウンニュース社横浜南支社の佐藤さん、当日取材いただいた家庭通信社の隅田さんをはじめ多くの方に、広報での協力やその他アドバイスをたくさん頂きました。

最後に、この場を借り、感謝申し上げます。みなさん、本当にありがとうございました。

2004年5月31日
自分と出会う旅工房 秋山 友志

「ひとり旅のつくり方講座（海外編）」
～自分だけのひとり旅をプロデュースしませんか～
報告書

発行日 2004年5月31日

発行・編集 自分と出会う旅工房

〒240-0053 横浜市保土ヶ谷区新井町 356-2-908 秋山方

TEL 090-5198-0285 FAX 045-381-5021

E-mail info@j-tabikobo.com URL <http://www.j-tabikobo.com/>

©自分と出会う旅工房・無断転載を禁じます。